

# 郷土研通信



発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)  
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

キタコブシ  
アイヌ語名  
オツゲニ [放屁する・木] 荃  
(アイヌ語アーカイブから)

## 令和7年度総会

令和七年五月二十八日、月例会を兼ねて総会が開催されました。会員(二〇名中一三名)の出席があり、規約第一七条に規定する過半数の出席となり総会は成立しました。

令和六年度の事業報告及び会計報告がなされ、全会一致で承認されました。次に令和七年度の事業計画(案)並びに予算(案)が提出され、全会一致で承認されました。

議題に移り、規約に「監事」を置くことが明記されていなかったことから、これを加える規約改正(案)が提出され、全会一致で了解されました。

役員の任期が満了となることから、役員改選が提出され、役員留任の意見があり、全会一致で承認されました。引き続き、監事の人選については事務局腹案が求められ、安藤会員、荻野会員が指名され、両人が承諾し総会で承認を得ました。次年度からの新役員は

(敬称省略)

- 理事 (会長) 松橋秀和
- 理事 平塚一明
- 理事 山本正裕
- 監事 安藤 心
- 監事 荻野峻宏

## 勉強会

「アトサヌプリを語る」

その3

講師小林さんが経験された町内の自然環境や遺跡調査の概要を説明され、弟子屈のあらゆることを調べ記

## 「知床 残された原始」写真展開催

五月二十八日から「水越武知床 残された原始」写真展」が開催されています。

六月一日には、ギャラリートークが催され、会場に約四〇名が来場されました。水越氏の知床に対する思いや世界的な自然環境をどう未来に引きつぐかを話され、来場された方々は、作

品一つひとつの解説される水越氏のお話しに耳を傾け

ておられました。



写真展会場



解説を聞く来場者

## 次回の例会

令和七年六月二五日(水)

一九〇〇

ふるさと歴史館

### 勉強会

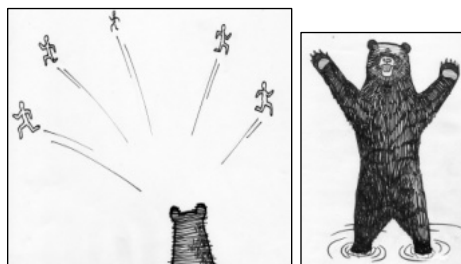
仮題

「私のガラクタ写真帳から」

講師：酒井盛興さん

川湯近郊の自然などを活写した中から厳選して紹介されます。

録に残すことの大切さを力説されました。その調査の際にアトサヌプリでクマと遭遇したことを挿絵入りで、その後町内で遭遇したこと写真とともに状況を話されました。



クマから逃げ回る調査員  
挿絵：山本悦子

# むかしむか史写真館

No.354

## 湯の島公園の昔の姿



「昭和49年の弟子屈市街図」  
『弟子屈町商工のあゆみ』から



「弟子屈町全図」から



現在の「湯の島公園」

弟子屈町内を流れる釧路川の河川改修事業は昭和五三（一九七八）年から始められ、現在の姿になった。写真の箇所は、現在「湯の島公園」となっているところだ。

今も住所名で残っているが、当時は通称「湯の島」と言われ旅館が数件、飲食店が数十件が集中するところで夜の繁華街で、弟子屈橋は「親不孝橋」の異名をもっていた。

「湯の島」の土地は川面からわずか一メートル前後の高さしかなく、大雨が降るとたびたび水害に見舞われていた地域で、河川改修は地域の悲願であった。

町にプールが完成したのは昭和三七（一九六二）年で、入場料は一〇円。駄菓子代になる一〇円がもったいない悪ガキどもの夏の暑い日の水遊びの場所にもっぱら川だった。写真（釧路川）の場所は、

川の流れが曲がり淀んでいるところで、子どもの背丈以上の深さがあり、崖の中腹あたりから飛び込んでも川底に届かない深さがあった。飛び込んだ後はそのまま流れに乗って崖の端まで行く。そのスリルは格別であったが、直に大人たちの耳に入り、この遊びはできなくなってしまう。大人たちにとっては命に係わることであるから止めさせるのは当然の事である。八町内（旧町内会名）の悪ガキどもにとっては隠れた絶好の遊び場だったのだが。

当時の年長のガキ大将は命に係わる危険への臭覚は敏感で、かつ仲間たちを統率する力は並みの大人たちのそれではなかった。

「事故にあうのは自ら命を守ることを学習しなかった奴なのだ」と個人的な感慨に浸りながら町の風景の移り変わりを確認するのにもまた楽しい。

松橋秀和 筆